

〔八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策〕

八丈島におけるセロリの安定生産技術の確立

～八丈島におけるセロリ収穫期の延伸～

坂本 彩・野口 貴*・山本陽平・菊池知古

(島しょセ八丈) *現園芸技術科

【要 約】八丈島でセロリを10月に播種すると翌年4月下旬～5月中下旬まで約2ヵ月収穫時期を延ばすことができる。

【目 的】

八丈島のセロリ栽培においては6月播種、1～3月収穫の栽培体系が主流である。一方で4月以降は需要があるものの良品生産が難しいことから、本試験では収穫期の延伸を検討し、八丈島におけるセロリ栽培の基礎的資料とする。

【方 法】

品種は「トップセラー」を供試した。表1の通り、2020年7月13日～2021年1月15日にかけて50穴セルトレイに播種した。定植は苗の根鉢が形成された時期である2021年1月14日～2021年4月12日とし、畝幅80cm、株間30cmの2条植え、1区1.08㎡(1.8m×0.6m)の2連制で栽培した。基肥はN-P₂O₅-K₂Oを50-50-50kg/10a、追肥は3回に分けて総量で3-3-3kg/10aを施用した。栽培期間中は常時、防虫ネット(サンサンネット、目合い0.8mm)を用いてトンネル被覆した。収穫調査は各区10株について行った。

【成果の概要】

1. 試験期間中の平均気温は、2020年10月～2021年6月にかけて平年よりもやや高く推移した。日照時間は多く、定期的に降雨があり、また湿度は試験期間を通して概ね平年よりも高かった(データ略)。
2. 高温の影響を受け、7月～8月播種区の発芽率は著しく低くなった(表1)。9月播種区は99%の発芽率を示したが生育は不揃いで、その後の生育は10月播種区と差がなかった。10月～1月播種区の初期生育に差異はなく、いずれも概ね播種後100日程度で定植に至った。
3. 9～11月播種区はいずれも定植後100日程度で収穫に至った。その収穫物は平均全重1248.6～1436.0g、調節重1221.0～1366.0g、茎径27.4～31.4cm、可販葉数20.0～22.4であり、これら項目において区間に差異は認められなかった(表2)。一方、11月播種区では定植後90日程度から抽苔が発生したため、5月中下旬まで(定植後80～90日)の収穫が望ましい。
4. 12～1月の播種では生育後期の高温により生育が抑制された。また早期抽苔や斑点病が多発し、収穫には至らなかった。
5. その他の病害虫として、5月にヨトウムシ類・アブラムシ類が確認されたほか、陸産貝類が周年を通して発生した(図1)。

【残された課題・成果の活用・留意点】

収穫が5月以降になると抽苔が懸念されるほか、各種病害虫の防除対策を講じる必要がある。

表1 各区の栽培日程および発芽率

区番号	播種日	発芽率(%)	定植日	収穫日 ^a
I	2020/07/13	18	-	-
II	2020/07/31	24	-	-
III	2020/08/17	64	-	-
IV	2020/09/01	99	2021/01/14	2021/04/27
V	2020/10/02	98	2021/01/14	2021/04/27
VI	2020/11/04	100	2021/02/10	2021/06/01
VII	2020/12/18	100	2021/03/30	-
VIII	2021/01/15	100	2021/04/12	-

a)収穫期の目安は茎径30cm程度とした。

表2 播種時期の違いがセロリの生育に与える影響

区番号	全重 (g)	草丈 (cm)	茎径 (cm)	調整重 (g)	可販 葉数	最大葉			SPAD値
						全葉長 (cm)	第一節間長 (cm)	葉柄幅 (cm)	
IV	1298.5	68.8	30.2	1221.0	21.5	61.7	26.3	4.3	48.7
V	1436.0	68.4	31.4	1366.0	22.4	61.9	27.8	4.5	51.3
VI	1248.6	78.3	27.4	1257.8	20.0	47.2	20.8	4.0	38.6

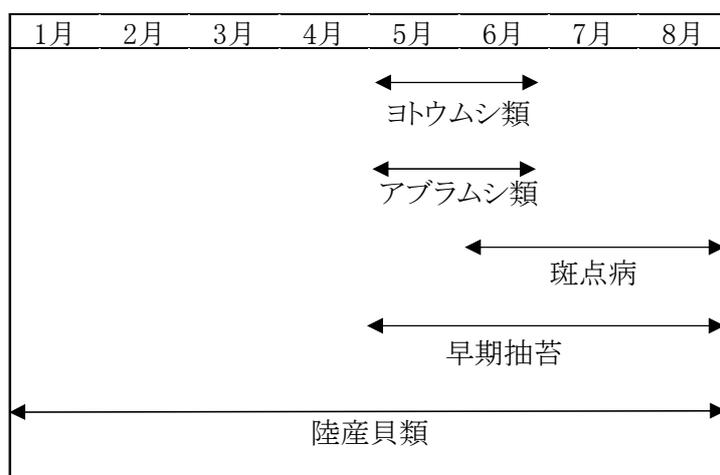


図1 本圃で観察された各種症状・病害虫